

「高知紀行 (3)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



せっかく高知に来たのですから、一応「はりまや橋」は見ておく必要があります。私の記憶にあるはりまや橋は赤い欄干なのですが、ちがいました。



何でも改修工事をしたのだそうで、はりまや橋っぽくなくなったので、元の橋に近い赤いのも作ったのだそうです。



この日は日曜日だったので、高知名物「日曜市」が

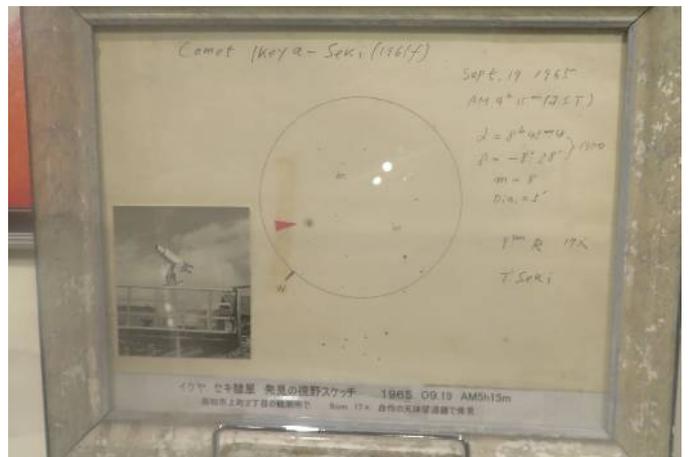
開かれていました。着いたのが午後だったので、あまり開いている店はありませんでした。一緒に出張だった同僚のご両親も店を出してお会いできました



日曜市の近くの科学館にもお邪魔しました。これもまた、同僚が開設に関わった館だそうです。



中でも目を引いたのが、関勉 (せきつとむ) に関する展示です。関勉は彗星の研究者 (コメット・ハンター) で、「池谷・関彗星」の発見者として有名です。

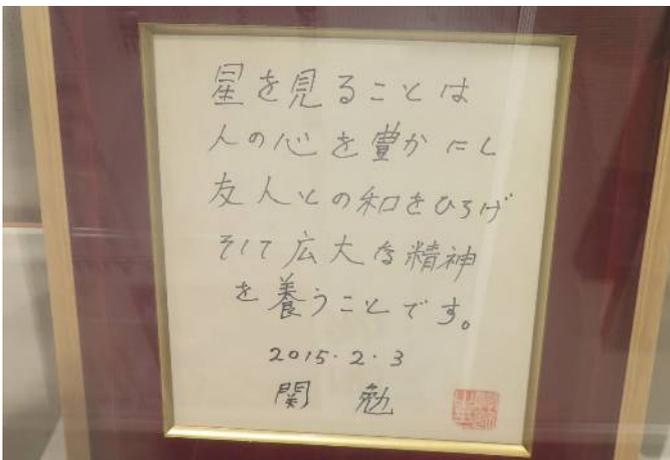


関が彗星の発見に使った手作りの望遠鏡や、実際に彗星を発見した時に観測記録の実物も展示されていて、かなり興奮してしまいました。私が子どもの頃に天文に興味を持ったきっかけが、この関勉さんの研究

だったからです。



相当にご高齢のはずで、もう亡くなったとばかり思っていました。何とまだご存命なのだそうです。一度是非お会いしたいと思いました。



関さん直筆のお言葉も展示されていました。これを読むと、地学領域・天文分野の学習の重要性を再認識させられました。というよりも、天文分野こそ理科の単元の中で最も大切とさえ思われました。



この館は、さまざまな体験型の展示とともに、教育普及活動にも力を入れています。この日もサイエンスショーが開催されていて、多くの親子が参加して熱心に見入っていました。



高知駅発の特急の発車まで少し時間があつたので、老舗の喫茶店に寄りました。東京ではこういう喫茶店は珍しくなりました。チーズケーキがスバラでした。



喫茶店から高知駅までは歩いても10分か15分なのですが、せつくなので、路面電車に乗ることにしました。土佐電鉄を略して、地元では「土電(とでん)」と呼ばれています。「都電」と紛らわしいので「つちでん」と呼んだらどうかと言ったら、叱られました。



これが「とでん」です。3両編成の新しいトラムも走っているのですが、ほとんどは昔の都電のようなレトロな電車です。かなり長距離を走っていて、系統も多く、市民の足として大活躍しています。